

方面	第84回定期演奏会	(1面)
1師団	第2次師団演習	(2面)
12旅団	総合戦闘射撃	(3面)
1施設団	団戦技競技会(射撃)	(4面)
関東補処	陸曹候補生課程履修前教育	(4面)
東混団	48普連訓練検閲	(5面)



令和7年10月25日 第1089号

総監統率方針「強靱な東部方面隊の創造」  
総監要望事項「一隅を照らせ」

陸上自衛隊東部方面隊広報紙  
発行所：方面総監部広報室  
住所：東京都練馬区大泉学園町  
専用線：8-37-2446



「アルト・サクソフォーンと弦楽オーケストラのための協奏曲」を披露



盛大な拍手を受ける東部方面音楽隊

東部方面音楽隊は9月16日、東京文化会館大ホールにおいて、第84回定期演奏会を実施した。本演奏会は方面隊訓練検閲の一部でもあり、音楽隊

# 初の試みで理解・共感・親近感を醸成 訓練検閲を兼ねた定期演奏会



山田曹長(写真左)と田中曹長(写真右)へのインタビュー  
独唱者へのインタビューをする山梨地本右田曹長(写真左)と田中曹長(写真右)のインタビューの様子

今回は初の試みとして、位置情報を利用して特定のターゲットユーザーに対してWEB広告を配信する手法「ジオターゲティング」を用いたほか、地本勤務者による「For Tokyo」金管・打楽器の編成による明るく軽快な曲調の「オペレッタ『軽騎兵』序曲」、そして独奏とバンドによるアルト・サクソフォーンと弦楽オーケストラのための協奏曲」を披露し、各楽器群の音色の特徴や、独奏者の演奏技術・表現

は一般演奏について、日頃の教育訓練成果を評価された。今回は初の試みとして、位置情報を利用して特定のターゲットユーザーに対してWEB広告を配信する手法「ジオターゲティング」を用いたほか、地本勤務者による「For Tokyo」金管・打楽器の編成による明るく軽快な曲調の「オペレッタ『軽騎兵』序曲」、そして独奏とバンドによるアルト・サクソフォーンと弦楽オーケストラのための協奏曲」を披露し、各楽器群の音色の特徴や、独奏者の演奏技術・表現力により、聴衆に感銘を与えた。第1部最後のトクコーナでは、東京地本池田2曹、山梨地本右田2曹の軽妙なトークにより、独奏者へのインタビューをはじめ、自衛隊の魅力や採用情報を発信し、自衛隊や音楽隊について知ってもらう良い機会となった。

第2部は中央音楽隊の初代隊長 須摩 洋明作曲の「行進曲「伸び行く日本」に始まり、東音がこの演奏会のために委嘱した「祭礼音絵巻「鳳凰と神輿」、平和への祈りを込めて作られた「果てしなく大空への讃歌」、西洋音楽の技法と和風テイストを見事に融合させた、日本が誇る吹奏楽作品「三つのジャポニスム①鶴が舞う②雪の川③祭り」、アンコールには君が代行進曲」等、邦人作品にこだわった選曲を吹奏楽大編成で演奏し、特に司会の効果的な活用に着手したシンリオを作成して、コンテンツである「我が国を愛する心を聴衆に再認識させることができた。さまざまに初の試み」で臨んだ今回の定期演奏会は、平日夜間の演奏会にもかかわらず、通常の約5倍の一般応募者を得たほか、関係諸団体等多くの聴衆が詰めかけ、大盛況のうちに幕を閉じた。

## 関係機関との連携強化 九都県市合同防災訓練

九都県市合同防災訓練は各都県市地域防災計画に基づき、防災対策の習熟と災害発生時の迅速かつ適切な応急・復旧対策における技能を高め、関係機関との連携強化を図ることを目的とした合同防災訓練であり、内閣府と連携した合同訓練及び各都県市以下で実施する訓練に区分され、昭和55年から実施されている。本会場訓練は東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県、横浜市、川崎市、千葉市、さいたま市、相模原市の持ち回りにより行われ、



地上偵察



救出救助訓練



訓練概要の報告を受ける総監

今年度は9月1日、さいたま市で実施された。訓練は東部方面隊から隊区担任部隊である第1師団第32普通科連隊、それを支援する第1飛行隊及び第1後方支援連隊が参加した。また訓練会場には内閣総理大臣を始めとする政府関係者が来場し、訓練を視察した。本防災訓練の準備から参加を通じて、災害対処に係る陸上自衛隊の情報収集能力、救出・救助能力等について広く周知するとともに、各関係部外機関等との連絡・調整に より相互理解及び関係強化を図ることができ、組織の垣根を越えて災害対処に係る実効性を向上させることができた。

訓練終了後、参加部隊は、防衛大臣及び東方面隊の更なる任務遂行への決意を新たにした。

## 広報担当者集合訓練 宮嶋氏による写真教育

報道カメラマン



宮嶋氏による写真教育



記念撮影要領の実習



映像編集の実習

方面隊は9月24日から26日の間、朝霞駐屯地において方面広報担当者集合訓練を実施した。本訓練は方面管下の広報担当者等に対して広報活動に係る基本的事項、上級部隊の各種施策等を周知するとともに、報道対応、写真・動画撮影等に係る訓練を実施して識能の向上を図り、今後の部隊等における広報活動の資とするを目的に、座学による全体教育のほか、討議及び意見交換、報道対応訓練、写真・動画実務訓練が行われた。写真実務訓練の上級コースでは報道カメラマン・ジャーナリストの宮嶋氏による教育が行われ、宮嶋氏の豊富な経験に基づく、写真撮影の技術や心得などの教育が行われた。参加者からは「実際に宮嶋氏が撮影した写真を例に撮影技法を学べたことが良かった。また教育時に撮影した写真に対して宮嶋氏から直接アドバイスを受けて学びとなった」との感想があった。動画実務訓練はシステム通信群の支援を受け、動画の撮影及び編集に係る教育が行われ、参加者からは「効果的なカメラワークなどの撮影技術と映像編集の基本を学んだ。今後のSNS投稿に生かしていきたい」との感想があり、所望の成果を上げることができた。

# 第1師団

## 首都防衛へ精強鍛錬

### 過酷な環境下で練度向上を追求

師団は9月2日から7日までの間、東富士演習場及び朝霞訓練場において第2次師団演習(第1次訓練検閲)を実施し、大隊及び第1施設大隊を受閲部隊とし、1偵戦大には「敵部隊拠点に係る情報収集及び警戒監視」「重要防護施設周辺における警戒監視」を、1施設大には「師団予備指揮所の構築」「重要防護施設の防護」「国民保護活動支援(残留住民保護活動)に対する施設支援」を主要検閲項目として付与した。これらは多種多様な複合的な任務遂行を要求するものであり、各受閲部隊には刻々と変化する状況に応じた的確な判断と部隊運用が強く求められた。

演習間は連日30度を超える猛暑や台風15号による豪雨等、極めて過酷な気象条件に見舞われたが、各部隊は部隊長の卓越した指揮の下、統裁官の要望する「状況に応じた柔軟な部隊運用及び状況判断」「領域横断作戦環境

下における戦闘への留意」「各種不要素を踏まえた安全管理」の具現を徹底して追求した。全隊員は各々の地位・役割を深く認識し、一人ひとりが一生懸命かつ創意を發揮して職責を全うした。そして与えられた一連の課題を克服し、厳しい条件下においても任務を完遂し、所望の成果を収めた。

師団は今後も付与される任務はもとより、予期される任務に対しても、常に自ら考え、創造し、現状に甘んずることなく「一生懸命」に精強な師団として不断の練成を重ねていく。

## 上田総監初度視察で隊員と懇談

訓練・生活環境の現況を確認



師団は8月28日、上田総監による初度視察を受察した。総監は練馬駐屯地に到着後、駐屯地慰霊碑及び頭号師団慰霊顕彰室において献花し、殉職隊員に哀悼の誠を捧げた。

総監はその後、儀仗隊による栄誉礼を受け、師団の現況について報告を受けた後、訓練施設や生活環境等を確認し、部隊の練度向上及び生活・勤務環境の充実に関心を示された。



師団は8月25日、練馬駐屯地において報道カメラマン・横田徹氏を招き実施した。(写真)

横田氏はロシアによるウクライナ侵攻後、七度にわたり現地取材し、特にウクライナ東部等における戦場で実際に撮影した貴重な映像をもとに、戦況の最前線でのようにドローンが活用され、その脅威は如何なるものかについて詳しく解説された。講話では、偵察や攻撃、補給・通信など、多様な場面で用いられるドローンの実態が紹介され、戦場の形が急速に変容している現状が浮き彫りとなった。隊員は真剣に耳を傾け、現代戦の厳しさと備えの重要性をあらためて認識した。

## ドローン戦争最前線レポート

報道カメラマン横田氏による講話



変化に即応する指揮・幕僚活動(1偵戦大:作戦会議)

## 災害対応力を確認

### 九都県市合同防災訓練で関係機関連携を強化

師団は8月30日から9月7日にかけて、第46回九都県市合同防災訓練等に参加した。9月1日、さいたま市桜区荒川総合運動公園を中心とした中央会場訓練が実施され、同市直下を震源とするマグニチュード7.3の地震を想定し、

第32普通科連隊及び第1飛行隊が訓練に参加した。ヘリによる航空偵察、バイクでの地上情報収集、消防と連携した障害物除去、航空自衛隊救助犬と共同した倒壊家屋からの負傷者救出を行った。本会場には内閣総理大

臣らが来場し、自衛隊と消防の救出活動を視察された。また訓練後には、防衛大臣から参加隊員へ激励の言葉が送られた。9月7日、幸手市県営権現堂公園において埼玉県会場訓練が行われ、32普通及び1飛行が参加した。橋崩落で孤立した住民を想定し、渡河

活動を行った。一連の訓練を通じ、師団は大規模災害対応の即応態勢と行動要領を確認し、関係機関との協力を強化、また地域住民の防災意識の向上を図った。師団は今後も首都圏の防衛、災害対応等の実効性向上に邁進していく。

30日は直下地震による孤立地域発生を想定し、1飛行がUH-1で都職員への派遣支援と物資輸送を実施した。31日には1施設大が重機で倒壊家屋により閉塞された道路を啓開し、消防・警察の進入支援及び救出活動を行った。

師団は8月9日から11日までの間、北海道静内対空射場において、第1高射特科大隊長を担任官として、81式短距離地对空誘導弾(短SAM)及び

び93式近距離地对空誘導弾(近SAM)の実射訓練を実施した。本訓練は対空戦闘能力の向上と実射練度の評価を目的とし、猛暑という

過酷な環境下でも、部隊はこれまでの段階的な練成の成果を遺憾なく発揮し、要撃を成功させ所望の成果を収めた。さらに高射学校作戦評価室の支援の下、指揮情報中隊及び高射中隊に対する模擬実射、射撃準備、対空実射に係る練度の評価・判定が行われ、貴重な教訓



残留住民保護活動に対する施設支援(1施設大:架橋準備)



警察・消防と連携し要救助者を救助



渡河ポートによる孤立住民の避難支援

また航空自衛隊の偵察・救助犬捜索により住宅倒壊と多数の負傷者が判明したため、32普通連は住民と協力し救助を行った。8月30・31日に行われた令和7年度東京都・羽村市・日の出町合同

避難支援した。また航空自衛隊の偵察・救助犬捜索により住宅倒壊と多数の負傷者が判明したため、32普通連は住民と協力し救助を行った。8月30・31日に行われた令和7年度東京都・羽村市・日の出町合同



要撃成功を収めた近SAM射撃



組長・射手連携した正確なHMG射撃

師団は一連の実射訓練と評価により得られた教訓を部隊運用に反映させ、首都圏防空の要として隙のない防空態勢を堅持するとともに、常に高い練度を維持していく。

## 防空態勢を確立

### 多様な火器で実射成果を獲得

師団は8月9日から11日までの間、北海道静内対空射場において、第1高射特科大隊長を担任官として、81式短距離地对空誘導弾(短SAM)及び

び93式近距離地对空誘導弾(近SAM)の実射訓練を実施した。本訓練は対空戦闘能力の向上と実射練度の評価を目的とし、猛暑という

過酷な環境下でも、部隊はこれまでの段階的な練成の成果を遺憾なく発揮し、要撃を成功させ所望の成果を収めた。さらに高射学校作戦評価室の支援の下、指揮情報中隊及び高射中隊に対する模擬実射、射撃準備、対空実射に係る練度の評価・判定が行われ、貴重な教訓

を獲得し、更なる練度向上へとつなげた。また9月8日から11日には、青森県六ヶ所対空射場において、第1後方支援連隊長を担任官とし、12.7mm重機関銃日(MG)による対地・対空実射訓練を実施した。各部隊から選抜された要員は三人一組で射撃を行い、組長の的確な指揮、射手の正確な照準、弾薬手の確実な補助をもって連携し、目標機1機を撃墜、2機に命中という成果を得た。



第1施設団

# 団射撃競技会を実施

## 部隊代表誇りをかけ熱

施設団は8月19日から20日までの2日間、宇都宮駐屯地射場において令和7年度団射撃競技会(射撃)を実施した。

和7年度団射撃競技会(射撃)を実施した。



至近距離射撃疾走前



基本射撃の様子

は、戦闘員として必要な戦術能力の向上及び敢闘精神をかん養するとともに、部隊の団結の強化と士気の高揚を図ることを目的として実施した。競技会は団隷下7個部隊の代表者が参加し、その成績をもって方面射撃競技会参加選手の選考も兼ねて実施された。

19日には団隷下部隊の代表が古河駐屯地に集結し、団射撃競技会開会式を実施した。

本競技会は2つの射撃要領で実施された。1つは基本射撃の伏せ射ちと中間姿勢をそれぞれ5発ずつ射撃する要領、もう1つは至近距離射撃をスタート地点から50メートル

ル疾走し、2個の的を4発ずつ撃つ2つの要領であり、成績は部隊平均と個人高得点順につけられ表彰された。

炎天下の団射撃競技会だったが、各部隊は熱中症対策に万全を期し、チームとして、個人として、熱戦を繰り広げ、部隊としては第307施設隊が優勝し、個人としては第101施設器材隊 伊藤 大輔

曹が最高得点を叩き出した。施設団は今後も射撃訓練や競技会等を通じて射撃能力向上を図っていく。

- 隊及び個人は下記のとおり。
- 【部隊順位】
  - 第1位 第307施設隊
  - 第2位 第101施設器材隊
  - 第3位 第5施設群
  - 【個人順位】
  - 第1位 第101施設器材隊
  - 第2位 第2等陸曹 伊藤 大輔
  - 第3位 第307施設隊
  - 第4位 第1等陸曹 倉持 裕之
  - 第5位 第5施設群
  - 第2等陸曹 仲宗根健二

# 新隊員教育隊修了

## 同期の絆を胸に新たな一歩

施設団は7月1日から9月16日までの間、古河駐屯地において一般陸曹候補生課程「施設」及び新隊員特設課程「施設」を実施した。

本教育の目的は施設科部隊等の施設手等として必要な知識及び技能を修得させることである。

約2カ月の教育では綱を使用した連結、重材料の運搬要領、船を漕ぐ漕舟、爆破薬を使用した爆破などの施設基礎作業を主体に多くのことを学び、全ての隊員が施設手等に必要な基礎的知識及び技能を習得した。

9月12日には古河駐屯地として新隊員を見送るため、臨時駐屯地終礼を実施し、新隊員たちは壇上で一人一人配置先を自己紹介した。最後は古河駐屯地総出で見送り、第1施設団長から熱い激励の言葉を贈った。



駐屯地終礼時の見送り



再会を誓う

9月15日、古河駐屯地体育館において、新隊員教育隊修了式が開催され、保護者らが見守る中、一糸乱れぬ基本教練や区隊旗の返納、優秀者の表彰の深さを物語った。

関東補給処

# 初級陸曹への第一歩

## 同期との絆を胸に切磋琢磨

関東補給処は9月1日から19日までの間、霞ヶ浦駐屯地及び土浦駐屯地訓練場において第148期及び第108期陸曹候補生課程履修前教育を実施した。

本教育の入校予定者9人に対し、陸曹候補生としての資質及び課程履修に必要な共通の識能と基礎体力を充実にすることを目的として、教育隊長

を目的として、教育隊長を向上させた。



戦術指導を実施する分隊長



目標奪取に向かって走る隊員

要望事項「一生懸命」を合言葉に、障害走や戦闘訓練など苦戦しながらも、同期と助け合い取り組み、同期との絆を胸に切磋琢磨した。

本訓練では大型フォークリフトの機能及び基礎操作を座学にて学習後、応用操作として講習コースを設置し、操縦手と誘導員の連携に基づいたコンテナの積載・卸し下操作(写真)を演習して基幹要員3人を育成した。



大型フォークリフト操縦訓練

# 未来の上級格闘指導官へ

## 不撓不屈の精神で最終選抜に挑む



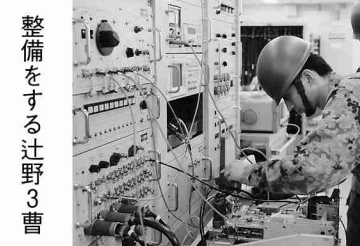
選抜の様子を視察する処長

8月19日から21日までの間、霞ヶ浦駐屯地において上級格闘指導官課程入校に向けた最終選抜を実施した。

選抜された隊員たちが自分の力を信じて挑んだ。

最終選抜まで進んだ通電部の右松一曹は「上級格闘指導官、訓練を共に乗り越えた部隊格闘指導官、訓練参加に協力していただいた上司、後輩及び同僚に感謝です。日々精進してまいります」と力強く述べた。

# 短SAM指示器等の組替整備



整備をする辻野3曹

誘導武器部は9月5日から12日までの間、霞ヶ浦駐屯地において誘導武器整備特設訓練を実施した。

本訓練では整備所における整備業務として、81式短SAM指示器等14件の組替整備を実施し、対空誘導武器及び短SAM射撃整備特設者の関東処としての整備能力の向上が図られ、また補給用品2個が完成し、在庫数の向上を図った。

3曹は整備特設課程修了後、初めて訓練に参加したが、整備員としての自覚が改めて高まった。今後も知識を生かして「頑張りなさい」と爽やかな笑顔で語った。

東部方面混成団

# 東部方面混成団訓練検閲

## 48普連 獅子奮迅

混成団は9月20日から22日までの間、第48普通科連隊の訓練検閲を北富士演習場にて実施した。

連隊長の指揮の下、即応予備自衛官の招集から戦力化及び、常備自衛官との一体化による戦力発揮までの一連の行動について攻撃の場面で検した。大雨に見舞われ悪天候から始まった検閲だったが、各隊員は状況下の行動により蓄積した疲労を克服しつつ、部隊の基本的行動と隊員の基礎動作の確行に努めるとともに、再編成に伴い陣内で移動中の敵部隊との突発的な

に、各級指揮官は変化する状況に応じた状況判断及び部隊指揮を的確に実施した。48普連は集結地において即自の戦力化後、対抗部隊が防御する地域を連隊目標として攻撃を開始し、主攻撃の第3中隊が浸透・迂回して、次々と敵部隊を撃破し、第一線目標地域に到達した。再編成に伴い陣内で移動中の敵部隊との突発的な

遭遇に際しても、常備自衛官の分隊長等が即自分隊員を的確に指揮するとともに、即自機関銃手の勇猛果敢な掃射により敵1個分隊を壊滅させるなど、大きな成果をあげ見事目標を奪取し、状況終了を迎えた。

本訓練検閲において48普連はまさに「常即一体」を具現するとともに、与えられた任務を完遂した。

### 優秀隊員紹介

- 【常備自衛官】
- 第3科 坂西良介 2曹
  - 本管中 秋澤伸男 2曹
  - 1中 関口俊樹 2曹
  - 2中 宮本聖士 3曹
  - 3中 福島巧 3曹
  - 4中 飯塚直樹 2曹
- 【即応予備自衛官】
- 本管中 佐藤桂介 1曹
  - 1中 飯島伸啓 2曹
  - 1中 柴田聡 1曹
  - 2中 平井孝明 1曹
  - 3中 片野裕平 3曹
  - 4中 森田裕介 3曹
  - 重追中 永島聡 3曹
  - 士長



指揮幕僚活動を行う第2科長



目標奪取に向け攻撃前進をする第3中隊



バイクと記念撮影を行う米側家族



高機動車に乗りこむ米海軍隊員

## 両国の関係強化に寄与

### 米海軍基地で陸自アピール

第31普通科連隊は9月30日に米海軍横須賀基地で実施された「ファーストレスポンス」イベントにおいて、高機動車・偵察用オートバイの展示を行った。本イベントは横須賀基地

地所在の隊員及び家族との交流イベントで、陸自のほかに海自・海保・警察・消防が参加し、それぞれの装備品や防災車等の展示を行った。展示ブースに訪れた米軍関係者や家族らは、珍しい陸自の高機やバイクに目を輝かせ、記念撮影を行うなど楽しんでいった。

東部方面混成団 公式Xはこちら!

陸上自衛隊【東部方面混成団】公式 @EACB\_takeyama

たくさんの方フォローお待ちしております!

31普連 48普連

## 総監部人事部募集課 募集ニュース

### オーダーメイド型職種説明会開催

方面隊は9月6日、「オーダーメイド型職種説明会」として、高校生・大学生・既卒者・保護者を含めて計85人の募集対象者等が、希望に応じた職種・分野の説明会及び装備品展示を研修できる場を設定した。

本事業は募集対象者に陸自の各職種隊員の活動についての理解を促進し、職業選択肢の一つとして認識させることを狙いとして、方面隊隷下部隊だけでなく、東方警務隊、富士学校及び陸自サイバー防護隊からも支援を受けて実施した。

女性隊員を含む若手隊員により、入隊動機、キャリアパス、勤務環境等について懇話風に説明するなど話やすい雰囲気づくりに心掛ける等、職種・職域の幅広さの理解と、職業としての魅力の発信だけでなく、参加者が抱える入隊後の疑問・不安の解消にも努めた。

また装備品展示については、戦闘職種、戦闘支援職種、後方職種の最新装備を含む装備品展示により、職種・装備品の魅力をより身近に感じてもらうとともに、装備品説明に加え、生活・勤務環境への質問にも対応し、自衛官の実情を理解してもらった。



装備品展示（野戦特科）



分野説明（サイバー）



女性隊員による懇談・説明

参加者からは「将来自分が希望する職種のイメージがアップができました」と「実際に装備品を見ることで、言葉では伝わらない迫力や頼もしさを感じられた」などの声を聞くことができ、所望の成果を上げることができた。

# 特科連隊 第1大隊及び情報中隊 訓練検閲を受閲

東部方面特科連隊は8月28日から30日までの間、東富士演習場において、練成訓練の成果を評価・判定するとともに、更なる進歩向上を促すことを目的とし、「離島守備部隊に配属された特科部隊としての行動」を関課目として、第1大隊及び情報中隊の訓練検閲を実施した。

本検閲実施にあたり、統裁官は「自ら考え、組織力を最大限発揮せよ」「あらゆる敵の脅威から健在して火力戦闘を継続せよ」「協力し、基本基礎を確立せよ」の3点を要望した。

東富士演習場において、



編成完了した第1大隊



陣地の偵察をする照準手



命令下達をする情報中隊

編成完了した第1大隊及び情報中隊は、8月の厳しい暑さの中、敵偵察衛星やドローンの監視、敵潜入部隊の偵察を回避しつつ、あらゆる状況に即応し、健在性を保持して火力戦闘任務を遂行し、任務達成するという認識の下、広域に陣地を展開し、離島における火力戦闘部隊としての任務を完了した。

またこの間、過酷な状況においても各級指揮官、隊員が各部隊の基本行動及び自ら為すべき基礎動作について妥協せずに行い、あらゆる状況に柔軟に対応して、任務を遂行できる一定の練度を保持していることを確認した。

# 後支隊 第303普通科直接支援中隊が受閲

東部方面後方支援隊は年9月19日から23日の間、北富士・東富士演習場において第48普通科連隊が受閲する東部方面混成団訓練検閲と連携して、第303普通科直接支援中隊に対する訓練検閲を実施した。

検閲間、第303普通科直接支援中隊は、常即一体となり、第48普通科連隊に対する野整備支援を実施するとともに、適切な技術援助を実施して、装備品等の高可動率維持

の基本的行動」「隊員の基礎動作」「兵站支援業務」を主要検閲項目として評価・判定するとともに、その進歩・向上を促した。

に努め、被支援部隊の任務遂行に寄与した。

特に、不整地における故障整備においては、困難な状況下での整備を迅速・確実に行い、被支援部隊の整齊円滑な部隊行動に貢献した。

本訓練検閲において隊長褒賞を受賞した近藤曹長は「私は中隊検閲に前方整備班長として参加し、限られた資器材・時間の



前方支援班による軽装甲機動車の野外整備

中で班員を統率し迅速・確実な整備支援を実施しました。その中で各状況に柔軟に対応できた成果

は、私より同行した班員にとって大きな経験になりました。例えば、先輩方の背中を見ながら自分自身は育てあげられ、今、班員に背中を見られているんだと感じました。定年まで残り少ない時間を後輩育成に力を注いでいこうと思います」と所感を述べた。

東部方面後方支援隊は本訓練検閲において所望の成果を収めるとともに、引き続き練成訓練を積み重ね、更なる練度向上を図り、任務に邁進していく。



全周を警戒しつつ進む車両梯隊

# 群通 シ 各種計画の実効性向上 方面システム通信訓練

東部方面システム通信群は9月16日から19日までの間、令和7年度方面システム通信訓練を担任し、方面隷下のシステム通信科部隊、方面直轄部隊との合同訓練により、各種計画の実効性向上を図るとともに、方面直轄部隊に對して段階的な訓練を実施して、システム通信確保に任ずる全隊員の識能の向上を図った。

本訓練は①あらゆる手段によるシステム通信の構成②システムの最大限活用③領域横断作戦能力の強化の3部構成で実施



実距離通信訓練（アンテナ設置）

し、①ではシステム通信科部隊と合同で「実距離通信訓練」を行い、高速大容量のSHF帯※1による通信構成、圧縮技術を駆使した高画質映像（4K）伝送検証を実施するとともに、方面直轄部隊に對し「部隊通信所訓練」として装備品と民生品（ローカル5G※2、One web※3）を活用したシステムの応用構成及び新技術・民生品の情報を発信した。②ではSNMS※4による共有・監視の要領を実施した。③において第302システム防護隊の支援を受け、サイバーセキュリティ教育により各隊員のリテラシー（知識や能



また本訓練を総監が視察し、隊員への激励を受けた。この間、今後の訓練のあり方について指導を受けた。東部方面システム通信群は本訓練で得た成果・教訓を反映して、引き続きあらゆる事態に備えることとする。

※1スーパーハイフリケンシー帯（高い周波数帯）  
※2携帯通信キャリアが提供しているパブリック5Gに對して携帯通信キャリアに依存しない、独自の5Gシステム  
※3低軌道衛星ブロードバンド  
※4固定・野外の各システム・ネットワークを一元的に管理するシステム

# 訓練所感



発射試験間はさまざまな困難があり、器材トラブルで射撃予定日に発射ができないう状況も生じましたが、官民が連携して故障探求を実施し、発射試験支援隊が一丸となって故障排除に全力を尽くすことで最終的に発射試験の任務を完了することができました。

私は7月9日から8月23日までの間、米国ニューメキシコ州ホワイトサンズミサイル試験場（以下WSMR）における発射試験に参加しました。

発射試験とは03式中距離地对空誘導弾（改善型）の品質を確認するための防衛産業（三菱）と協力して実施する事業であり、試験工程に基づき各地上装置を連繋してシステムの機能確認及び誘導弾の発射を実施します。その中で私は誘導弾を発射機

に搭載する運搬装置とに装着する器材を取り扱いましたが3つの目標をもって本発射試験に臨みました。

目標の1つ目は「無事故で発射試験を完了すること」、2つ目は「部下を的確に指揮して迅速に誘導弾を搭載し、試験工程を滞りなく進めること」、3つ目は「零細時間を活用して対空戦闘訓練を実施し、発射試験終了後に接続して実施される中SAM部隊射撃訓練に向けて練度を向上させること」です。

発射試験間はさまざまな困難があり、器材トラブルで射撃予定日に発射ができないう状況も生じましたが、官民が連携して故障探求を実施し、発射試験支援隊が一丸となって故障排除に全力を尽くすことで最終的に発射試験の任務を完了することができました。

本発射試験は今年で最後ということですが、それに相応しい活躍ができたのではないかと思います。

今回の経験から、任務達成への執念やチームの団結力の大切さを改めて実感し、本発射試験に参加できて本当に良かったと感じています。

このWSMRにおける発射試験で得た貴重な経験を今後の自衛隊勤務に生かしていきたいよう、更に精進します。

### 静岡地本

## 女性対象のバスツアー

### 練馬駐屯地で部隊見学

自衛隊静岡地方協力本部は8月22日、練馬駐屯地で女性限定部隊見学バスツアーを行った。

これは自衛官の仕事に興味のある中学生から32歳の女性を対象に、施設見学や女性自衛官との懇談を通して自衛隊に対する理解を深めてもらうことを行った。保護者7人を含む27人が参加した。



女性隊員との懇談

駐屯地では、まず隊員食堂で昼食のカレーを体験し、その後、車両整備工場、部品倉庫、隊員居室の個室モデルルームの見学、防衛医科大学出身隊員による衛生隊紹介、女性隊員との懇談を行った。

車両整備工場ではトラックや高機動車などを整備する女性隊員の姿を見学し、男女の区別なく幅広い仕事に就くことができていることを確認した。また衛生隊の紹介では「自衛隊の中でも女性の割合が高く、資格を生かして活躍できる場が多い」といっ

### 東京地本

## J1サッカー会場

### 自衛隊への関心促進

自衛隊東京地方協力本部は9月20日、味の素サッカーJ1・第30節の東京ヴェルディ対フアジヤ岡山の試合会場にお



ルディ事業部運営グループと連携し、自衛隊の活動内容や社会的な役割を周知することで理解の深化及び魅力化を図るため広報ブースを出展した。

当日は、時折、強い雨が降るあいにくの天気にもかかわらず、サッカーファン約1万人の中、屋外イベント会場（アジヤン広場）において、高機動車及び1・1/2ト

ガラボン抽選会  
3千人の大観衆が集まる中、屋外イベント会場（アジヤン広場）において、高機動車及び1・1/2ト

た話を聞き、参加者の一人は「話が聞けて良かった」と興味を示していた。

女性隊員との懇談は4グループに分かれて行

### 神奈川地本

## 秦野市総合防災訓練

### 自衛隊の活動を紹介

自衛隊神奈川地方協力本部平塚地域事務所は8月31日、秦野市立北小学校で実施された秦野市総合防災訓練に



災害派遣食の紹介

は真剣に耳を傾け、「衛生隊員は高卒でもなれますか」として（就職先に）自衛隊を選んだのですか」と積極的に質問をしていました。

静岡地本は今後も駐屯地見学などの機会を設け、自衛官を志す若者のサポートを行っていく。

合防災訓練に参加し、自衛隊ブースを出展した。

会場では災害派遣に関するパネル展示や自衛隊の携行食（戦闘糧食）の紹介、制度説明などを通じて、災

### 群馬地本

## 安心安全フェアで広報活動

### 募集相談員と連携

自衛隊群馬地方協力本部前橋募集案内所は8月31日、スマーク伊勢崎において「安心安全フェア」に参加した。



募集相談員による説明・案内

防災犯意識を高めることを目的に実施されたもので、当日は多くの方々が来場し賑わった。

本イベントは伊勢崎市が主催し、地域住民の防

### 栃木地本

## 栃木県内の企業が参加

### 任期制隊員に合同説明会

自衛隊栃木地方協力本部は8月22日、宇都宮市宮みらいのライトキューブ宇都宮において令和7年度栃木県任期制隊員合同企業説明会を実施し



企業の説明を受ける隊員

と退職後の将来に向けたイメージアップに繋がった。参加企業からは、「少人数であるものの魅力的な人材が揃っており、是非採用につなげていきたい」という声を多数得ることができた。

また県内の進路指導を担当する学校教諭3人を説明会会場に招待し、退職後の充実した再就職支援策等、任期制自衛官の有利性を説明し、各校の生徒達に自衛官という就職先の魅力を伝えてもらえるよう、理解を深めてもらうことができた。

は参加する任期制隊員が8人と少数であり、その旨を事前に参加企業等に通知していたが、栃木県内に所在する企業63社のほか、関

### 茨城地本

## 防衛大学校1学年が

### 茨城県知事を表敬

自衛隊茨城地方協力本部は8月6日茨城県庁において防衛大学校1学年による大井川和彦茨城県知事への表敬を実施し



茨城県知事の激励を受ける学生

には、学生から防衛大学校の指導要領の変更や防大学生生活について説明し、将来はどのような分野に進みたいのですかと質問をし、学生は自身の夢・目標（駐在武官や機甲科の指揮官を目指す等）を緊張しながらも発言していた。

敬は茨城県出身の1学年6人と4学年の2人が参加した。懇談の際

# 最上級曹長

## 「共(友)に」 第117教育大隊 佐藤 俊幸 准陸尉



「あづま」をご覧の皆様、日々の訓練・業務等お疲れ様です。令和7年3月より、第117教育大隊最上級曹長を拝命しております佐藤准尉です。

表題の「共(友)に」は上司要望事項を具現するために掲げた最上級曹長(以下新隊員等課程)及び連・大隊等の最上級曹長課程(以下CSM課程)さらには予備自衛官補招集教育訓練、予備自衛官招集訓練と年間教育訓練を他部隊からの支援及び協力を得ながら担任しています。新隊員等課程においては集団生活及び教育を通じ、服務の本旨、団結・規律・士気、技術等の修得、CSM課

程(以下新隊員等課程)及び連・大隊等の最上級曹長課程(以下CSM課程)さらには予備自衛官補招集教育訓練、予備自衛官招集訓練と年間教育訓練を他部隊からの支援及び協力を得ながら担任しています。新隊員等課程においては集団生活及び教育を通じ、服務の本旨、団結・規律・士気、技術等の修得、CSM課

程においては准曹士のリーダーとしての必要な資質をかん養、また予備自衛官補訓練においては、自衛隊組織に対する理解の獲得及び官・民の良好な関係構築及び募集

情報獲得への寄与等、更に支援要員にとっては教育を通じ隊員基礎動作等の振り返りや識能向上のための修業・成長の場となる等、重要な役割を担っていると思います。

このような特色を持つ部隊の最上級曹長として勤務できることは、大きな誇りであると同時に自らも日々成長しなればいけないと強く実感しております。

我々の任務を遂行する上で、より良い教育、質の高い隊員を育成するために、現状に満足することなく、最上級曹長として部

隊の最上級曹長として勤務できることは、大きな誇りであると同時に自らも日々成長しなればいけないと強く実感しております。

我々の任務を遂行する上で、より良い教育、質の高い隊員を育成するために、現状に満足することなく、最上級曹長として部



## 「2人で乗り越える」 第1施設団本部付隊 3等陸曹 天野 将太 第11普通科連隊 3等陸曹 天野 美智華



私は茨城県古河駐屯地に所在する第1施設団本部付隊の天野3曹です。

妻は北海道千歳駐屯地に所在する第11普通科連隊で勤務しています。

私たちは1年前に仙台駐屯地で行われた、通信特技課程で出会いました。お互い地元から離れた遠い土地で不安もありましたが励まし合い無事教育を修了することができました。

教育中における休日の楽しみといえは2人で行く映画鑑賞と食へ歩きではありましたが、たくさんのお話を2人で見に行き、様々な物を食べました。特に仙台駅周辺にある「鯛焼き」というお店の鯛焼きがとても美味しく夫婦の思い出の味です。

教育が修了し、遠距離恋愛になり長期休暇しか会えない生活が1年間続きました。教育中のように頻りに会えなくなり、2人で悲しんでいました。が、次会える時の予定を考えると楽しみが増え、新しい発見も多くありました。今年の10月に晴れて入籍し、遠距離恋愛には変わりませんが、目の前の業務にも更に力が入っています。

また遠距離恋愛になっ

# 「命を守る」

## 第1偵察戦闘大隊 小林 祐那 陸士長



私は現在、第1偵察戦闘大隊で衛生救護員として勤務しています。令和

5年、大学進学という道もありましたが、それ以上命を守る仕事をしたという思いが強く、高校3年生の時に自衛隊への入隊を決意しました。

高校時代はチアダンス部に所属し、日々仲間とともに体を動かしていました。その経験もあり、体力には自信がありました。自衛官として必要な体力を培ってきたことが、今の自分を支えています。

5年、大学進学という道もありましたが、それ以上命を守る仕事をしたという思いが強く、高校3年生の時に自衛隊への入隊を決意しました。

高校時代はチアダンス部に所属し、日々仲間とともに体を動かしていました。その経験もあり、体力には自信がありました。自衛官として必要な体力を培ってきたことが、今の自分を支えています。

の選択が自分にとって良かったと胸を張って言えます。

偵察戦闘大隊における衛生の任務では、冷静さを失わず、医学的根拠に基づいて迅速に判断し、行動することが求められます。状況は常に変化しますが、一つひとつの判断が隊員の命や偵察任務の成功の可否に直結するからこそ、責任の重さを実感しています。その分、やりがいも大きく、機甲科職種への信頼を得られた時に、この職種ならではの充実感を覚えます。

気を張り詰める場面も多いですが、私は「ちいかわ」が大好きで、疲れたときや一息つきたいときに癒されています。可愛らしいキャラクターに触れると、自然と表情が緩み、明日も頑張ろうと

# 東方男児

## 「健康第一」 第102野外病院隊 小林 圭輔 陸士長



今月の東方男児は東部方面衛生隊第102野外病院隊に所属する小林士長です。小林士長は茨城県東市出身の27歳。入隊前は正看護士として民間病院に勤めていました。現在は自身の経験を生かし、傷病者に寄り添

った看護を提供するため日々訓練に励んでいます。

Q 自衛隊に入隊したきっかけは?

東日本大震災で被災した際に自衛隊の方の活動を目にしたのがきっかけです。その後、2015年関東東北豪雨にて被災した友人の救助活動や被災した病院での医療援助活動を見て、自衛隊への入隊を決めました。

Q 衛生科職種を選んだ理由は?

正看護士として病院で働いていたこともあり、先輩方から教えていただいた知識と経験を少しでも生かせたいと思い、衛生科を志望しました。普段は収容所を開設し、模擬患者に対する医療行為の実施や他部隊への救護支援を行っています。隊員の命を守ることに繋がった姿を見るとやっ

よかったと思います。

Q 日々の任務で心掛けていることは?

医療に真摯に向き合うことと健康第一です。

Q フライベートでチャレンジしたいことは?

救護支援と収容所業務です。救護支援では実際に患者を看ることができると山登りの経験はありますが、空のアクティビティはなないため、スカイダイビングをやってみたいです。

Q 今後がんばりたいことは?

自分は社会人を経験したことがあり、ほかの同期より年上ですが、温かく接していただける部隊の期待に応えられるよう体力錬成や勉強に励み、陸曹候補生試験合格に向けて頑張ります。

### 編集後記

「無駄と思えることも」世の中に情報があふれる昨今、タイパ(タイムパフォーマンス)が強く意識され、時間の価値が高まっている。昔から便利とは、何がスピーディーになる事である。スマホの進化、ネットの普及でどんな情報でもすぐに検索することができ、とても便利な時代である。しかし、便利な反面、情報が多すぎて処理できない。同僚と話したら、「テレビ番組の録画は死ぬまでに見切れないから録画はやめた」と言っていた。確かにその通りだ。ハードディスクは大容量となり、いくらでも録画できるし、いつでも見られると思うと全く見ないので溜まっていく一方である。また、情報過多で人の脳も疲弊しているらしい。そんな脳を休ませるため、あえて何もしない「ぼーっと」する時間が想像力を向上させ、感情制御などの効果も期待できるようだ。一見無駄な時間にも意味があるのだ。さらに、ネットで苦勞せず、海外の景色を見て旅行したつもりになったり、何かを探索し知識を得た様に感じたり、何か体験したつもりになるのは簡単だが、自ら足を運んで五感を感じたり、苦勞したりすると想像以上の感動や面白さを味わうことができる。速度や効率重視も良いが、たまには何もせず「ぼーっと」したり、迂回して無駄と思える時間を楽しんでみるのも良いのではないだろうか。